

まちの「今」をお届けします

市で初めてとなる隊員に委嘱状を交付 地域おこし協力隊員着任



井上勇氣さん（右から2番目）

都市部から地方に移り住み、地域の活性化に取り組む地域おこし協力隊の隊員が市に初めて着任し、2月3日、市役所で委嘱状交付式を行いました。

隊員となったのは、井上勇氣さん。井上さんは北九州市出身の34歳で、接客業などを経て農業に関心を持ち、農業ができる場所を探していたところ、市ホームページの募集に目が止まって応募したそうです。

地域おこし協力隊は、平成21年度から導入された国の制度で、地域の活性化と、最長3年間の任期を務めた後の定住が期待されています。

井上さんは厚狭地区に住み、市北部の川上地区で農事組合法人川上営農組合や地域の人々の指導のもと、米作りのほか、農作物直売所「ゆめ市場川上」の手伝い、地元の農産物を生かした新商品の開発などにも取り組みます。

井上さんは「農業は未経験だが、自分が食べるものを自分で作れることは最高だと思っていた。寝太郎かぼちゃを使ったスイーツ作りなど、若い世代に向けた作物や、6次産業に取り組んでみたい。次の人が続くように頑張りたい」と意欲を語りました。



10m 障害物歩行に挑戦する参加者

身体機能を自覚し、交通安全につなげる 高齢運転者講習会

1月28日、高齢者の加齢に伴う心身の変化を客観的に把握し、交通安全につなげてもらおうと、高千帆公民館で高齢運転者講習会を開催。65歳以上のドライバー14人が参加しました。参加者は、身体機能をチェックして、自らの身体機能を自覚すると同時に、交通安全を心がけていたようです。



表紙は「きららビーチ焼野の夕陽」をデザイン

市の魅力を冊子でPRします 山陽小野田市ガイドブック

市では、市の魅力をPRするため、山陽小野田市ガイドブック「SO (創) smile」を製作し、配付しています。A5版26ページのフルカラーで、市内の見どころや住みやすさを紹介するなど、情報が満載です。市への転入者に配付するほか、市役所等の公共施設に設置。市ホームページからも閲覧できます。